

令和元年度動物実験に関する自己点検・評価報告書

青森県立保健大学
動物実験委員会

令和2年4月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 □ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 機関内規程が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 □ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号 ・ 青森県立保健大学動物実験委員会規程 平成20年4月1日規程 第39号（最終改正 平成31年4月1日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験委員会が適正に運営されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

3. 動物実験の実施体制（動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 青森県立保健大学動物実験規程が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制（遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等の実施体制が定められているか？）

1) 評価結果 □ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 ■ 該当する動物実験は行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 該当せず
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 該当せず
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

5. 実験動物の飼養保管の体制（機関内における実験動物の飼養保管施設が把握され、各施設に実験動物管理者が置かれているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 青森県立保健大学動物実験規程に基づいた適正な飼養保管の体制である。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

<p>国の指針である「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針等」において実施すべき項目のうち、「当該研究機関など外部の者による検証を実施すること（以下「外部検証」という。）」に則り、公益財団法人実験動物学会外部検証委員会から訪問調査により外部検証を実施した。</p> <p>その結果、学長の許可のもと、指針に即して実施されているとの検証結果が得られた。また、飼養保管管理についても各担当連携のもとに行っている点が高く評価された。飼養保管施設への各マニュアルの配置、動物実験を実施する教員への再教育訓練の実施、情報公開の点については、改善を要する点があったことから次年度より対応していく。</p>

II. 実施状況

1. 動物実験委員会（動物実験委員会は、機関内規程に定めた機能を果たしているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号 ・ 青森県立保健大学動物実験委員会議事録
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 青森県立保健大学動物実験規程に基づき、適正な活動を実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

2. 動物実験の実施状況（動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 動物実験計画審査願 ・ 動物実験委員会審査結果 ・ 動物実験終了報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況（当該実験が安全に実施されているか？）

1) 評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 該当せず
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 該当せず
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

4. 動物実験の飼養保管状況（飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか？）

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号 ・ 実験動物の納品伝票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 青森県立保健大学動物実験規程に基づき、飼養保管が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

5. 施設等の維持管理の状況（機関内の飼養保管施設は適正な維持管理が実施されているか？修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号 ・ 実験動物飼養保管施設点検作業日誌
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 適正に維持管理が実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

6. 教育訓練の実施状況（実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練を実施しているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 動物実験に関する教育訓練資料（令和元年5月14日、7月18日） ・ 参加者名簿（参加人数45人） ・ 公私立大学実験動物施設協議会「実験動物管理者の教育訓練」修了証（令和元年6月15日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

7. 自己点検・評価、情報公開（基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか？）

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 青森県立保健大学動物実験規程 平成31年4月1日規程 第1号 ・ 動物実験に関する自己点検・評価報告書 ・ 青森県立保健大学研究推進・知的財産センターホームページ
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 情報公開を平成23年度より実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

8. その他

1) 青森県立保健大学動物実験委員会の構成 5名 内訳：青森県立保健大学動物実験委員会規程第3号に基づき、(1)研究開発科長、(2)社会福祉学科を除く各学科ごとに、教授、准教授、専任の講師又は助教のうちから1名、(3)地域連携推進課長
2) 令和元年度の動物実験計画申請書の審査件数 5件（別記「令和元年動物実験計画申請一覧」参照）
2) 令和元年度の実験動物種ごとの飼養数 ・ ラット 124匹 ・ マウス 0匹

別記

○令和元年度動物実験計画申請一覧

承認番号	研究者名	研究課題名
19001	李 相潤	成長期における心因性ストレスが形態（筋/骨/臓器）及び生体反応（酸化ストレス/抗酸化能）に及ぼす影響
19002	井澤 弘美	解剖生理学実験Ⅱ（栄養学科 専門支持科目）でラットを使った血球観察および血糖調節作用実験
19003	山岡 伸	妊娠期・授乳期に低栄養に曝された母体が授乳期に摂取するクルクミンによる成長後の子の心血管疾患や腎障害にみられる炎症及び酸化ストレスの軽減とその作用機序の解明
19004	佐藤 伸	栄養学科の学生実験「生化学実験Ⅱ」（2年次後期開講）：糖尿病モデルラットにおける血液・尿性状の解析および肝・腎中タンパク質の SDS-PAGE 電気泳動による分離
19005	井澤 弘美	ODS ラットにおける SVCT1 の発現に対するリンゴ果汁の効果に関する研究